

参加減少受け県「メッセージ動画」公開

ボランティア参加して

県は26日、西日本豪雨の被災地で活動する復興支援ボランティアへの参加を呼び掛ける「メッセージ動画」をインターネット上で公開した。参加者が減少しているため、倉敷市真備町地区の被災者や現地で活動した高校生らが出演している。



倉敷市真備町地区の被災者のみなさん

倉敷市真備町地区の被災者が出演してボランティアへの参加を呼び掛ける動画の一場面

被災者、高校生ら呼び掛け

伊原木隆太知事、被災者、同地区でボランティアをした玉野高校生が順番に登場する構成。被災者は「何もかもが泥だらけで途方に暮れていたが、たくさんボランティアが駆け付けてくれた」「家財道具の運び出しなど大変助かった」と感謝の気持ちを述べている。

知事は「まだまだ皆さんの力が必要」と訴え、玉野高の生徒約20人が全員で「ボランティア活動に参加しましょう」と声をそろえて締めくくっている。県内被災地のボランティア募集状況などを案内する県社会福祉協議会のホーム

ページも紹介している。11月以降、平日に105人から半減している。10～200人が必要とする。県は「住宅の清掃など被災者のニーズに応じていない。息の長い支援をお願いしたい」としている。

倉敷市真備町地区にボランティアを派遣している同市災害ボランティアセンターでは、9月の1万7000人参加者は5777人、長い支援をお願いしたい。動画は1分5秒。30秒バージョンもあり、動画投稿サイト「YouTube」で見られる。(水嶋佑香)